**俊　剛　盆　栽　園**平成2７年８月

　平成１６年の暮れ、盆栽を趣味にしていた弟が病でこの世を去り、５０余年に及ぶ盆栽が遺産とし

て残りました。しかしその数が余りにも多くその後を引き継ぐ者も居ないため、弟に代わり兄の小生

が面倒を見ることになりました。小生が現在近くの里山で制作中のトーテンポール（高さ１０ｍ）は

一旦作業中止としなければなりませんが、何とか双方を同時進行出来ないかと思案中です。

　盆栽園は自宅から車で１５分の所（宮津市字上司）にあり、約９０坪の土地に半分は鉢物で、あと

半分は山取の樹木が地植となっております。鉢・プランター・苗鉢などに植えられた樹木が約８００

本と地植の木々が約１０００本ちかくあります。まだ正確に数えて居ないのですが、何れにしても多

く有りすぎて、途方に暮れています。

　弟が元気な時は山に出かけ、次々と盆栽に成りそうな樹木を見付けて持ち帰り、育てて来ましたが

突如病気となり、数年は充分な管理も出来ず多いに荒れ気味の状態でありました、春になり４月から

少しづつ整頓に掛かり、８月にはやっと粗方片づきました。７月の梅雨明けから夏の猛暑となり、如

何に枯らさずに持ち堪えるかで苦労しました。

　盆栽については全くの素人で、その善し悪しの判断もつかないのですが、弟が５０年間を費やして

成し遂げた盆栽とは、如何な物なのかが幾分成りとも知り得る事が出来るのではないか？？？、との

思いでやってみることにしました。しかし私は子供の時からの極端な夜型人間ですから、朝の水遣り

は到底出来ず、日暮れだけの水遣りですから、盆栽などとはまったく不向きな人間だと思いつつもや

れることはやってみようと、挑戦者のつもりで続けています。かと言って朝型人間に切り替える事は

到底出来ないので。いかにして夏越しが出来るか？？？が、最大の課題でした、お盆も過ぎに、やっ

と秋の気配がしてきたことで、何とか難関は乗り越えられたのではと安堵しています。

　園内には盆栽の他に「シダ」も有り１５種が判明しましたが、「コケ」は排除する事としました。し

かし盆栽用に植えた樹木は大きく成りすぎて、もう庭木としなければならない物もあり、園内は樹木

で大入り満員です。

今後をどのように運営していくかよっては、有る程度処分しなければならないような状態です、と

は言えせっかく育てた物を処分するのも気が進みません、したがって枯れれば廃棄とします。

　鉢植と地植には、この地方の山に多く生息している「杜松」が一番多く、盆栽としては大きすぎる

様な物も植ってをり、盆栽として鉢揚げしても重く成りすぎて、如何なものかと思われます。「松」も

るのですが多くを枯らしてしまったようで少なめです、「あせび」「えびね」「ぐみ」「けやき」「こむら

さき」「さつき」「さるすべり」「しゃくなげ」「しらん」「せっこく」「ひいらぎ」「ひかげつつじ」「び

なんかずら」「ぴらかんさ」「ふじ」「ぶな」「まゆみ」「まんりょう」「むくげ」「むべ」「やまもみじ」

等々の他に未だ判明出来てない樹種も多くあり、さしずめ「ミニ植物園」の様でもあります。

　５０年の歳月は途方に長く、日本文化の一つでも有った盆栽ですが、経済的な社会の流れの中で徐々

に愛好家が減少してしまい、現時点では盆栽の愛好家を見付けるのもままならず。文化が一つ消え去

ったようです。しかし急速な高齢化が進む中で、個人の趣味としの「盆栽」を楽しむ人口が徐々に増

加する時代と成っても良いような時期だと思うのですが無理なのでしょうか？？？。

　最近の情報によると、盆栽は日本人よりも外国人に人気が有るようですが、日本人には盆栽を愛す

る「ゆとり」が消え失せてしまって、経済的に価値のない物と見なされ忘れてしまっているかのよう

です、盆栽の完成度を高めるには長年の日時が必要と成りますが、見て（観賞）楽しむのも趣味の一

つだと思います、日本人の一人一人がゆとりの時間を取り戻す事が出来れば、盆栽も見直されるでし

ょう、ゆとりの無い日常生活は「経済の奴隷」になってしまているのだと理解すべきのですが、その

事すら感じる事の出来ない時代になってしまっているのだと言えます。

　何れにしても日本の文化の一つある盆栽が消滅しない内ちに、愛好家を増やさねば成りません。俊

剛盆栽園の今後の運営についても考えねば成らないのですが、まだ荒れ放題の状態から脱出出来てい

ません、９月とも成れば猛暑も無くなり整理整頓も進むだろうと思っています。

もし近辺で盆栽の愛好家が見つかれば、同好者の団欒の場として有効に活用できれば良いのですが、

少々難しい難問です、かと言って最良の運営方針決めるには、まだ盆栽についての知識も得ていない

ので決めかねており、その内に良い知恵が出てくるだろうと楽観視しながら、取り合えず出来る作業

を行っていきます。

　俊剛盆栽園は宮津市字上司にあり、宮津線の栗田駅の近くで、駅から徒歩で３分の所です。駅前は

無料駐車場と成っており便利です。最寄りにお出での折はぜひお立ち寄り下されば幸いです、お待ち

しておりますのでご連絡下さい！！！ 。　　　　　Ｔｅｌ　０７７２－２２－５０５２

下記のリンク名をクリックして下さい

[**Annnaizu\_c**](file:///C%3A%5C%E3%81%99%E3%82%82%E3%81%86%E3%83%86%E3%83%AC%E3%81%95%E3%81%98%E3%81%8D_W7%EF%BC%BF%EF%BC%B3%EF%BC%B5%EF%BC%AD%EF%BC%AF%EF%BC%B5%EF%BC%B4%EF%BC%A5%EF%BC%B2%EF%BC%A5%5C%E3%81%96%E3%81%A4%E3%81%A0%E3%82%93%EF%BC%BF%EF%BC%A3%5Czatu_2%5Cannnaizu_C.jpg) **俊剛盆栽園の案内図**

[**Zennkei\_c1**](file:///C%3A%5C%E3%81%99%E3%82%82%E3%81%86%E3%83%86%E3%83%AC%E3%81%95%E3%81%98%E3%81%8D_W7%EF%BC%BF%EF%BC%B3%EF%BC%B5%EF%BC%AD%EF%BC%AF%EF%BC%B5%EF%BC%B4%EF%BC%A5%EF%BC%B2%EF%BC%A5%5C%E3%81%96%E3%81%A4%E3%81%A0%E3%82%93%EF%BC%BF%EF%BC%A3%5Czatu_2%5Czennkei_C1.JPG) **盆栽園の全景＿１**

[**Zennkei\_c2**](file:///C%3A%5C%E3%81%99%E3%82%82%E3%81%86%E3%83%86%E3%83%AC%E3%81%95%E3%81%98%E3%81%8D_W7%EF%BC%BF%EF%BC%B3%EF%BC%B5%EF%BC%AD%EF%BC%AF%EF%BC%B5%EF%BC%B4%EF%BC%A5%EF%BC%B2%EF%BC%A5%5C%E3%81%96%E3%81%A4%E3%81%A0%E3%82%93%EF%BC%BF%EF%BC%A3%5Czatu_2%5Czrnnkei_C2.JPG)**盆栽園の全景＿２**

**宮津市の大道通りと桜山公園を観光客向けの商店街と催しもの広場にする提案**

**ちっ ちゃ な 町 の「 お も し ろ 道」** 平成25年10月

宮津町（旧宮津町）の真ん中に「大道通り」があります、この道路は宮津に長年在住の方でも知ら

ない方が多い（7割ぐらいは）ようです、江戸時代は京街道より道幅が１尺広くて（2間3尺）、町中

の南北の幹線道路でした。

　公設市場とキセンバから南へ310ｍ程の道で、その先は桜山公園へと登って行きます。この「大道

通り」の大道をかなで「おお道」とし、まん中の「お」を取り除き、代わりに「もしろ」を挿入して

「おもしろ道」としました。

　宮津町の中核である「新浜・魚屋町・本町・万町」の4町（４町内）は横の通りで各町内会が形成

されており、長年に亘り行事等は横方向の町として行なわれて来ました。しかし平成14年11月に新

浜松原線が開通したことにより、4町は幅広（巾16.5ｍ）の道路で真っ二つ寸断され、これまで行わ

れて来た行事等が行いにくくなりました。

　平成9年7月には、大型ショピングセンターのミップルがオープンしました、時代の流れではある

のですが、町中の小売店は次々と店じまいとなり、町の至る所にシャッターが降り、駐車場が出来、

歯抜けだらけの町内になってしまいました。平成13年には４町の人口は930人で世帯数は388戸で

した、平成22年には人口707人で世帯数326戸となりました、９年間で人口が223人と世帯数62

戸が減少しました。ほぼ１町内がすっぽり無くなった数値です。

　昭和の宮津町の商店街は、年に２回の大売り出しと夏の夜祭りをしていましたが、その繁栄ぶりは

物凄く、多くの買い物客で通りが埋め尽くされ、肩が触れあい通り抜けるのも大変でした、今から思

えば一時代の夢のような出来事でした。

　都市計画法が昭和43年1月に施行されましたが、宮津市は昭和46年に都市計画道路として、地図

上に赤線を引き都市計画都市となり、この事により都市計画税の徴収が出来るようになりました。都

市計画法には風致地区の条項もあり、古い町の風情を残していく事も出来たのですが、残念ながらこ

の考えは取り入れませんでした。道路さえ出来れば都市は発展するとの思いと、税金が入ることに拘

わったように思われます。

　平成元年10月には用途地区の指定を行いましたが、商業地域・工業地域・住居地域等の指定だけ

で、風致地区の指定は無く、指定に対する促進的行為は殆どせず今日に至っています。道路の指定だ

けでは都市計画税の徴収が難しくなり、単なる無難な行為だっただけのように思われます。法律の幾

多の趣旨を真面目に捉えていれば、歯抜けだらけの老いぼれ町には成らなかったでしょう。

　宮津の町は、城下町とか観光の町だとか言っていますが、城下町としての町並みや景観は殆ど無く、

単なる歴史上だけの城下町なのです。観光の目玉として造った歴史の館は閉鎖してしまいました、観

光客が立ち寄れる商店や食堂等は殆どありません。海もありますが観光船は内海（阿蘇海）のみで外

海（宮津湾）にはありません、日本の周りは海ですので、海は特別な場所ではありません、海は観光

資源にはなりにくいでしょう。なぜか町の西部にお寺が沢山ありますが、万人向けの観光資源とはい

かないでしょう。

　宮津市には日本三景の天橋立があり、丹後の玄関口であり、昔は新浜に遊郭もありました。これら

の事にアグラヲカキ「宮津町への観光客は来るものであって、来てもらうものではなかった」ようで

す、常に受け身で消極的でした。来て下さいと頭を下げてお願いする事は出来なかったのです。

　近年に至って観光での促進を進めようとして、シンポジュウム等を開いて来ましたが、講師の先生

方やオブザーバーの方々の褒め殺しの言葉に踊らされただけで、実行する事はしませんでした、色々

と遣ってきたようですが実際は何もしていません。何もしていないのですから観光客の来ようがあり

ません。

　アレヤコレヤで宮津町は衰退を続けました、高齢化によると思いがちなのですが、そうではなく発

展しようと努力しなかったのです。人口も急激に少なくなりました、宮津市の人口も2万人を切り、

「宮津市」ではなく「宮津町」の方が適格なような気がします。

現時点で宮津町として何が必要で、何が不必要かを洗い出せばワンサト出てきます、それらを並び

立てても埒も無いことです。少々の難事でもアイデアしだいで成立させなければ、もうこの町は救わ

れません、衰退をたどるのみです。

　こうなった町を如何にして守り抜くか、発展させていくか、長年考えてまいりました、名案もなく

悶々としていましたが。今年（平成２５年）の春より、「宮津マルシェ」についての会議（オフサイト

ミーティング）が開催されました。この機会にと思いマルシェとは別の提案として、「おもしろ道」を

発表しました。

　未完成な提案ですが、当面は実現の可能性を確かめるべく、進めて参りたいと思っています、以降

は箇条書きでの提案の説明ですが、この提案に対し御賛同や御意見等を戴だければ誠に幸いですので、

よろしくお願い致します。

１，横通りでやりにくいのならば、縦通りでは出来ないか？、発想の転換としては良い考えだ思

います。町中に縦通りは幾筋もあります。

２，昨今は、広場的観光開発が多く行なわれるが、通りとしての開発は無理ではないか？。しか

し逆に古典的な考えも好まれるかもしれません。

３，車社会は今後も続きますが、駐車場は何処にするのか？。浜町の立体駐車場（パーキング浜

町）とその周辺を有効利用します。

４，国道の横断には、歩道橋を造ります。東西の交差点（中町の交差点・西堀川の交差点）に造ら

なくても１本ですむし、「おもしろ道」への案内塔（橋）にもなります。傾斜路も出来れば造り

高齢者等の横断も可能にします。

５，商店街としての道幅は丁度良い幅（3.8ｍ前後）ですから、観光客は左右の店を覗きながら通れ

ます。距離も遠からず近からずです。

６，桜山公園はイベント会場として最適です、面白広場として大いに賑やかに利用すべきです。そ

の上の山は展望所（宮津湾と町）に利用できます。

７，客筋は観光客の誘致を目標とします、橋立や丹後への道筋の一部として１・２時間でも立ち寄

っていただける様にします。

８，店舗等は現存家屋を有効利用します、家屋のない所は屋台店程度の店とするか、露天のままで

利用します。昼夜入れ替わり店舗も良いでしょう。

９，桜山公園にステージとトイレを造り、何時でも演芸会等が出来るようします。子供や老人等が

憩える所も必要です。

１０，通りの中間辺りに休憩所とトイレ造ります、賑やかさと落ち着きとが混合出来る商店街としま

す。

１１，「面白い」とは何んぞや？、徹底的にトコトン研究して、店舗や商品やイベントをします。「面

白い」を合い言葉に全てが統一可能な通りとします。名店街や専門店街では客筋が固定してし

まいます。全ての観光客に「面白かった」と言っていただけるように努力します。

１２，何回来ても変化していると感じられる通りとして、「二度と行くまい」ではなく「何度来た」と

言われる事を「モットー」に頑張ります。

１３，全国には同様の商店街が有るかもしれません、新たに出来るかもしれません。元祖「おもしろ

道」と誇れる事が大事です。

１４，縦通りの観光客は横通りへも散らばりますから、横の町筋をも繁栄可能となるでしょう。何と

しても観光客を「おもしろ道」に誘い込み、町の発展に貢献しなければなりません。

１５，「おもしろ道」は商店街として観光客を誘致するための、地理的条件が満点です。短距離の所に

海有り・町有り・山有りで、これらの有効活用で町の活性化に役立てます。

１６，個人が箇々に店舗等を造るとバラバラに成りますから、団体としての組織（組合）を創ります、

組織名は「もしろ会」（仮称）とし、全ての事を協議してきめます。

１７，店主会員・大家会員・協力者会員等の会員を募り、強固な団体とします、軟弱では種々の融資

や助成金等の対象とはなりませんから、努力と協力が必要です。

１８，大道通りに面した土地や家屋は、会として借り受けます。したがって大家としての自由度は幾

分阻害されますが、ご協力をお願いいたします。

１９，何事も合議制で決めますが、個々の自由と努力に報いる体制をも調え、過不足のない組織を目

指します。

２０，少しずつ発展出来ればではなく、有る程度の完成度の高い時点からの出発とします。観光客は

中途半端な所には寄りつきませんので、難問が多々あり、準備が大変だと思います。

２１，現時点での大道通りは殆ど何もありません、何も無い通りを商店街に創り替えようとするので

すから、是非とも現地を訪れ、憧れの目で観察してみてください。桜山公園も木々の伐採等の

手入れを施こせば素敵な公園に生まれ変われます。幾多の困難を乗り越える努力を重ねること

が宮　津町の発展再生へとつながります、希望無くして事業は成功しません。

２２，全国の町には観光資源を最大限に活用して、観光客がワンサト押し寄せ、大成功している所が

多々有ります。残念ですが宮津町は多くの資源を壊してしまい、ほとんど何もありません。「お

もしろ道」は新たな観光資源の一つとして創り出すことを目的として提案しています。その他

の提案もドンドン出していただき最良の案を見つけ出し、実行しましょう。

Tel 0772-22-5052　〒626-0029　 京都府宮津市字金屋谷650番地　浅田 武尚

 下記のリンク名をクリックして下さい

[Omosiromiti](file:///C%3A%5C%E3%81%99%E3%82%82%E3%81%86%E3%83%86%E3%83%AC%E3%81%95%E3%81%98%E3%81%8D_W7%EF%BC%BF%EF%BC%B3%EF%BC%B5%EF%BC%AD%EF%BC%AF%EF%BC%B5%EF%BC%B4%EF%BC%A5%EF%BC%B2%EF%BC%A5%5C%E3%81%96%E3%81%A4%E3%81%A0%E3%82%93%EF%BC%BF%EF%BC%A3%5Czatu_2%5Comosiromiti.jpg) おもしろ道の案内図

しりとりいなご １３．０３．１１　ｐ１

宮津町　ちっちゃな町です　すがとおる

大道も　最早知らない　いにしえ路

あやになり　立派な花実　見事なり

耐えてきた　丹後の宮津　造り換え

輪 儲けなし　白木で作ろ　路地店も

輪　　　　 もくろみし　仕舞た屋明けろ　露天でも

輪　　　　 最早よし　老舗もはいろ　論よりも

一音輪　　　 おやつ買お　おもしろ道を　おもろ顔

一音輪　　　 俺も買お　おもしろ道を　思い出を